

網膜対応検査⑨(両眼ビスコープ試験)

両眼ビスコープ試験の詳細が明らかでなく、①と②の方法を記載するも①と②の方法も本により曖昧。

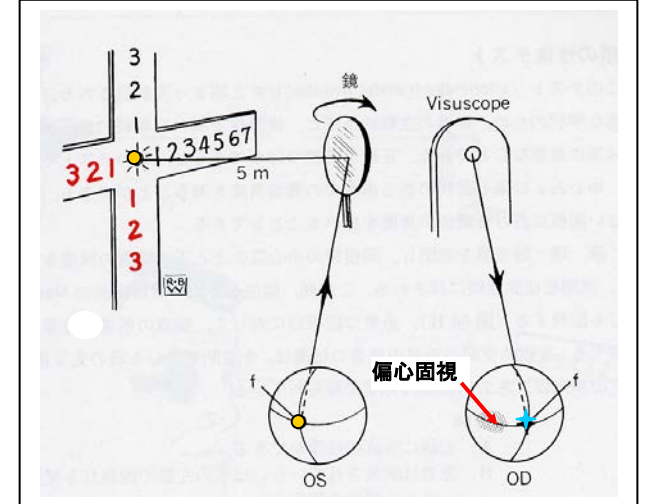
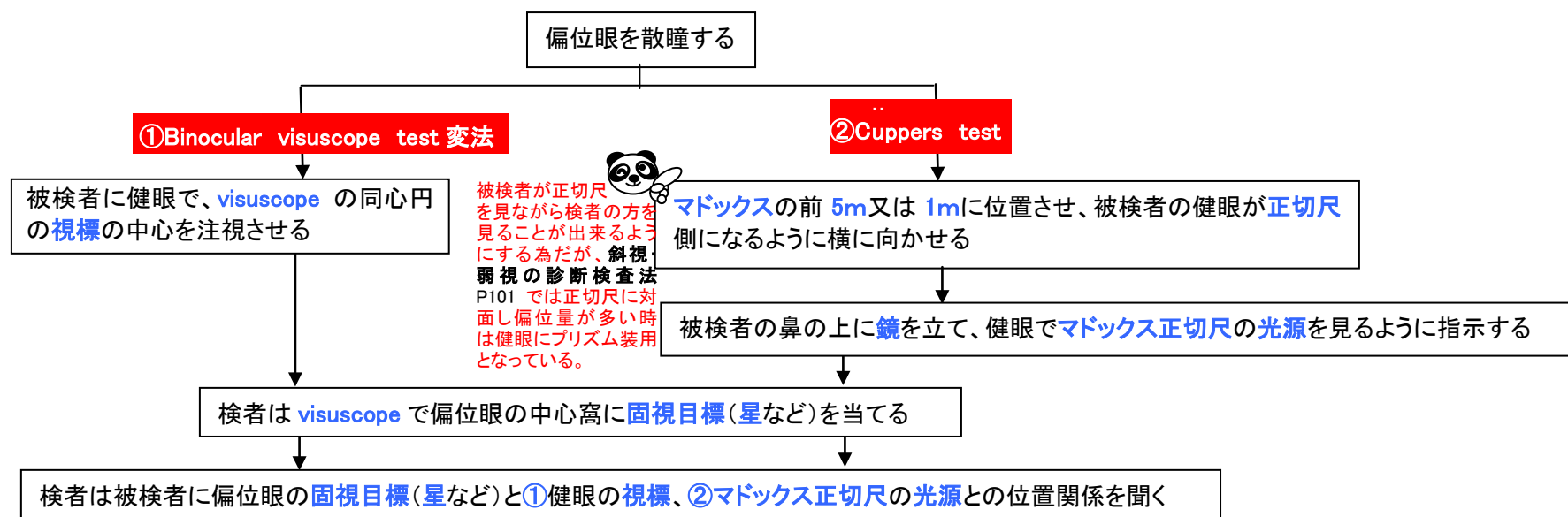
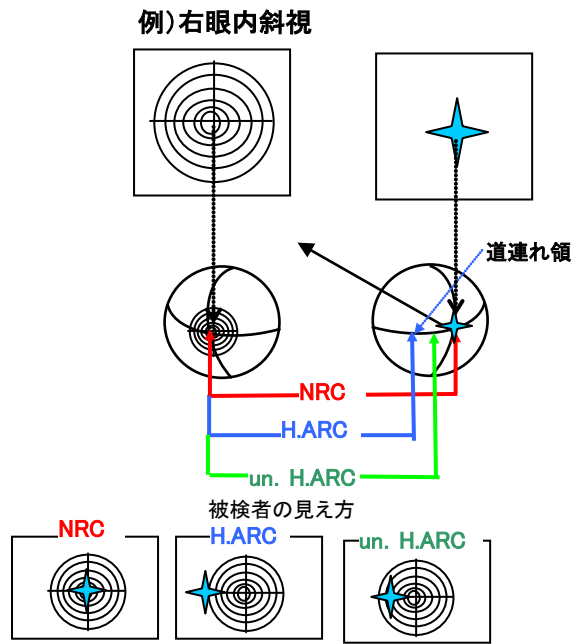
(①Binocular visuscope test 変法)(②Cuppers test)

準備物 散瞳薬 ①visuscope 又は euthyscope ②マドックス正切尺・鏡・visuscope 分離方法 ①visuscope での異質図形投射 ②マドックスの光源と異質図形 検査方法 F 対 F

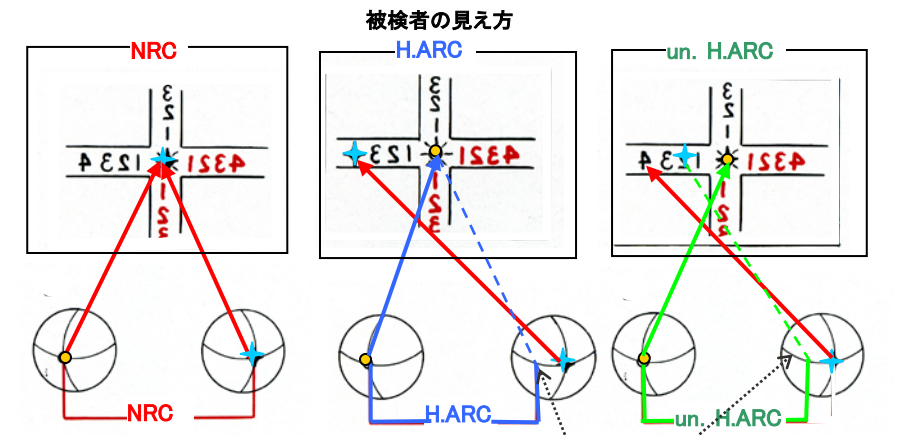
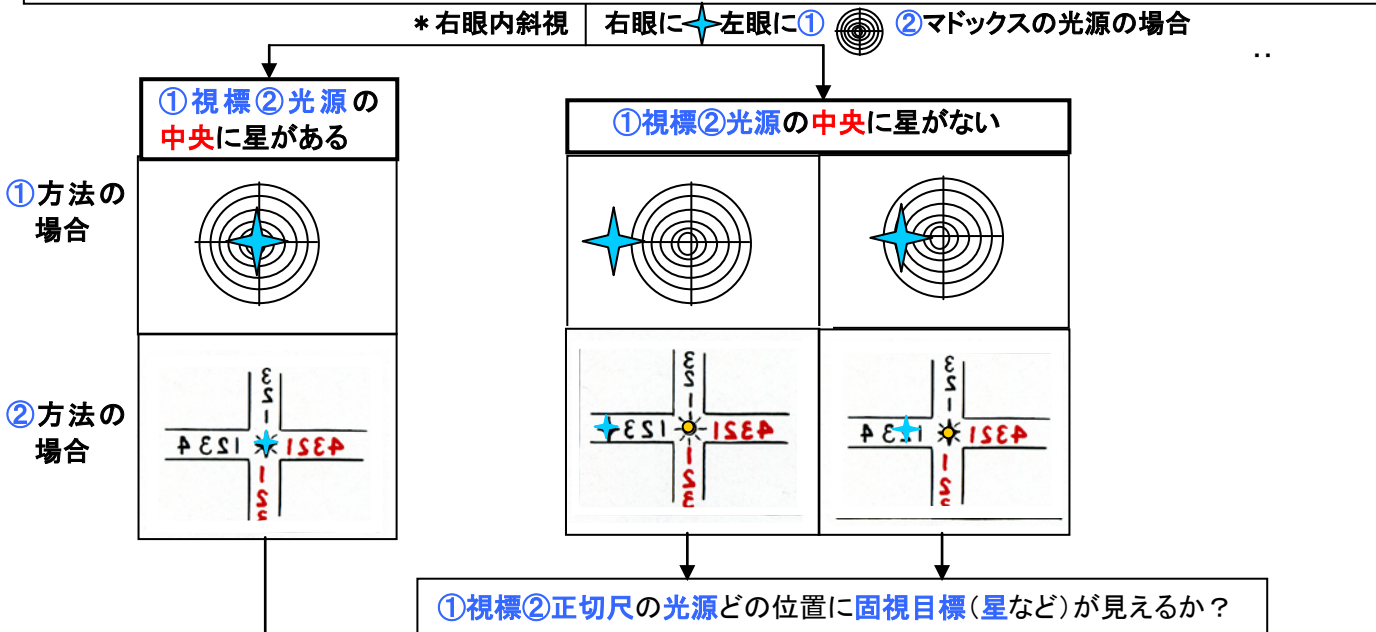
目的 微小な斜視の網膜対応の把握
偏心固視がある場合の異常角の量的分析
片眼遮閉の検査じゃないし、常に中心窩に投影するので偏心固視でもできるね。



①Binocular visuscope test 変法
視能矯正マニュアル P201



②Cuppers 法による検査 アトラス斜視 P101 図 65

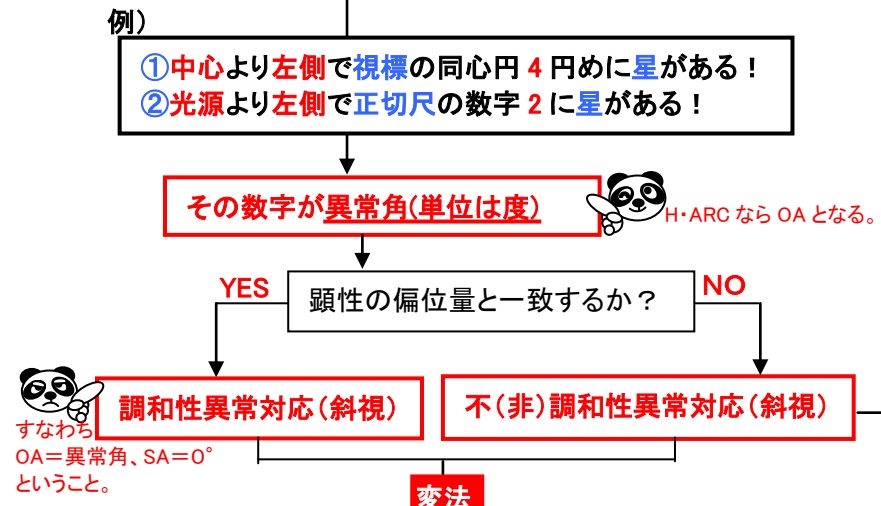


道連れ線
この場合の OA は 4° で SA は 2°、異常角は 2° ということになるね。

長所
偏心固視がある場合でも異常角度の定量が可能である。

短所

- ・日常視とかけ離れている。
- ・強い抑制があると、患眼が検眼鏡の星の固視を妨害することがある。
- ・正切尺の数字が逆に写る。
- ・返答が難しい。



結果・記載例)

Binocular visuscope test
不調和性異常対応右眼内斜視 異常角 2°
(R-ET un. H. ARC)

自分の結果を書いておこう!

